



## 知事「ゆたかさ多彩『生活創造』くまもと」を語る

先頃「新しい県の総合計画」が発表されました。この計画は、県民一人一人がそれぞれの生活を創造していくという「県民共通の指針」とでもいえるべきものです。きょうは、本誌六月号から十二月号までの特集で、七つの視点の立場で登場していただいた中から七人の方々に集まっていたいただき、総合計画に対する知事の考えを、それぞれの立場から聞いていただきました。

### ソフト面の充実にも 重点を置きました

知事 一昨年の二月より県政を引き継ぎまして二年経ちました。これから西暦二千年まであと八年。この二千年を目標に、県政を進めていく上で一つの羅針盤を作りたいと、たくさんの方々の意見や知恵をお借りして作業を進めてまいりました。昨年三月に基本構想をまとめ、それに基づいて産業別に、あるいは地域別にどういった重点をおいて仕事を進めるか、専門の先生方に最後の点検をして頂き、正式には一月末に発表の運びとなりました。この計画は、これからの八年間、何を目標に仕事を進めるか、県政の拠りどころとなるものです。

まず、基本的な目標は「ゆたかさ多彩『生活創造』くまもと」です。

百八十五万の県民の皆さんは、自分の生き方を持っていて、そのライフスタイルは多様化しています。また、価値観もそれぞれ違ってきます。それぞれの価値観が満足できるよう、生活する人の立場に立った計画にしていきたいという気持ちがこのフレーズに込められているのです。

では、これを実現するにはどうしたらいいかと言いますと、二つのことが考えられます。一つは「優しくまもと」をつくる社会システムづくり。も

「ゆたかさ多彩『生活創造』くまもと」キャンペーンロゴ



- 文字のなかや輪郭にデザインされている楕円は、思いやりにあふれる「優しくまもと」を象徴しています。また、発展・前進を示す右上がりの方向性は、「躍動するくまもと」を象徴しています。
- 「生活創造」という伸び伸びとした書体には、県民一人一人の多様なライフスタイルが実現できるようにとの願いがこめられています。
- 緑は、熊本の豊かな自然を、オレンジは、その大きな希望と限りない可能性をイメージしています。